

南砺市 SDGs 未来都市推進実施計画

～南砺市民が創る南砺の未来に向けて！～



策定にあたって

◆SDGs とは

SDGs（持続可能な開発目標）とは、「今」のことだけでなく、「未来」の人や環境のことを考えて行動し、これからの発展につなげることを意味します。

例えば、私たちの財産であるきれいな山や川などの自然環境を守ること、限りある資源を大切に使うこと、昔から伝わる伝統や文化を次世代に引き継ぐことなどは、持続可能な開発に結びつく取組のひとつと言えます。



▲環境・社会・経済の三側面の調和の必要性を図にしたSDGs ウエディングケーキモデル

◆これまでの取組

本市では、今後、更なる人口の減少や高齢者世帯の増加に加えて、地球温暖化や気候変動等の様々な変化が予測されており、2013年3月に「小さな循環と地域デザイン」を基本理念として「南砺市エコビレッジ構想」を策定し、取組を進めてきました。

◆SDGs 未来都市の選定

本市は、2019年7月に、「南砺版エコビレッジ事業」の更なる深化として提案した「南砺市 SDGs 未来都市計画」が、「SDGs 未来都市（自治体による SDGs の達成に向け優れた取組を提案する都市）」として選定され、その中でも、特に先導的な取組として「自治体 SDGs モデル事業」としても選定されました。

◆市民と協働で進める 推進実施計画の位置づけ

本計画は、「南砺市 SDGs 未来都市計画」で策定した 2030 年のあるべき姿を達成するためのロードマップとして、行政だけでなく、市民、企業、各種団体などすべてが主体的に取組んでいくために策定するものです。

◆推進実施計画で目指すあるべき姿

「南砺」に暮らす私たちが、この土地の豊さや暮らしに感謝と誇りをもち、互いを信頼し、誰ひとり取り残さない地域社会である「世界に誇る一流の田舎」を目指し、次代を担う子どもたちが笑顔で暮らし続けられるまちを実現します。その実現のため、SDGs の「環境」「社会」「経済」の三側面から、2030 年のあるべき姿を描きます。

誰ひとり取り残さない 誰もが笑顔で暮らし続けられるまちへ

《世界に誇る一流の田舎》

（環境） 懐かしい暮らしを再評価し、自然と共生できる

（社会） あらゆる世代が安心して暮らすことができる

（経済） 地域資源を活用しながら地域課題を解決できる

◆あるべき姿の実現に向けて

2030年のあるべき姿を実現させるため、「南砺市エコビレッジ構想」で示した6つの基本方針に基づいて施策を実施することとします。また、その実施にあたり原動力となる3つの取組を基盤とします。

基盤		南砺の土徳文化、支え合いのまちづくり（文化と教育の連携） 小規模多機能自治の推進（地域内分権による住民自治の再構築） 南砺幸せ未来基金（コミュニティファンドの創出と活用）	
将来像	三側面における将来像	6つの基本方針	施策
誰ひとり取り残さない 誰もが笑顔で暮らし続けられるまちへ	自然と共生できる 懐かしい暮らしを再評価し、暮らしを	【環境①】 再生可能エネルギーの利活用による地域内エネルギーの自給と技術の育成	(1) 森里川海の連携による環境保全 (2) 再生可能エネルギーの利活用
		【環境②】 森や里山の活用と懐かしい暮らし方の再評価による集落の活性化	(1) 田舎における暮らし方の再評価 (2) 森や里山の保全と活用 (3) 空き家対策とその活用
	あらゆる世代が安心して暮らすことができる	【社会①】 保健医療・介護福祉の充実と連携	(1) 住民の生活を支える公共交通の構築 (2) 支え合い幸せに暮らせるまちの構築 (3) 結婚から妊娠、子育てまでの支援
		【社会②】 未来を創る教育・次世代の育成	(1) 地域の文化や歴史を守り、発信し、継承する (2) 未来を創る教育の推進 (3) 持続可能な教育基盤の整備
	地域資源を活用しながら地域課題を解決できる	【経済①】 ソーシャルビジネス・コミュニティビジネスによるエコビレッジ事業の推進	(1) 地域内経済の循環・自立 (2) 住民主体による課題解決の促進 (3) SDGsの普及・啓発
		【経済②】 農林業の再生と商工観光業との連携	(1) 次世代に繋ぐ農林水産業の推進 (2) 地場産業の支援・活性化 (3) なんとの魅力発信

具体的な取組

◆全体のロードマップ



◆評価及び見直し

- ・市民意識調査によりSDGsの認知度、取組状況を把握する
- ・市民会議における進捗管理、提案等を行う
- ・2024年度の「第2次南砺市総合計画 後期計画」策定時に合わせて本計画の見直しを行う
- ・総合計画事業を中心に選定した個別事業のK P Iは総合計画の指標を準用する

STEP 1

SDGsを理解し、SDGsの視点で地域の課題について考える。

【知る】中学校・高校でのエコビレッジ部活動や祭りなど地域行事への参加、農林業の体験、都市との交流、先進事例の調査、高齢者等、地域でのヒアリングなど、地域の置かれている現状や課題を知る。

取組例

- ・SDGs ウィーク
- ・SDGs カレッジ
- ・イベントのポスター、名刺や名札でSDGsをPR
- ・SDGs シンポジウム
- [市民活動] ・桜ヶ池ネイチャースクール

【考える】市民、企業、団体等が持続可能な社会を構築するために生活や仕事の中で行動を起こすきっかけづくりができる「場」をつくる。その「場」の中で地域課題を共有し、地域課題の解決方法を探す。

取組例

- ・円卓会議
- ・SDGs プラットフォーム
- ・ステークホルダーミーティング
- ・企業・団体との連携協定
- ・地域づくり協議会課題解決事業
- [市民活動] ・分野ごとの協議会
- ・まちづくり団体

STEP 2

市民、企業、団体、地域、行政のそれぞれができることから取組むことで、身近なところからSDGsの視点に立って行動する。

取組例

- ・(仮称) なんと未来創造塾 (将来各地域で起業を目指す若者を対象にした塾の開催)
- ・資源集団回収常設ステーション (いつでも持ち込めるステーションの体制の構築)

STEP 3

既存の事業を横断的に組み合わせたり、行政と市民、企業等が連携して取組んだりすることで相乗効果が生まれ、地域課題の同時解決を図る。

リーディングプロジェクト案

- ① 地域資源を活用し海を汚染から守る
- ② 豊かな農景観を守る
- ③ 災害時の地域を支える再生可能エネルギー
- ④ 誰もが安心して暮らせるまちづくり
- ⑤ 南砺でワーケーション
- ⑥ 次世代に伝える生きる力
- ⑦ SDGs ポイントも組み込んだ地域通貨システムの構築で地域内経済循環を図ろう
- ⑧ 南砺で（田舎）体験 また、こられ
- ⑨ オーガニック農業で食育と関連産業の振興
- ⑩ SDGs 未来都市実現に向けた礎プロジェクト
- ⑪ 成果報酬型の新たな地域づくりの導入（南砺版ソーシャルインパクトボンド）

まずは一歩
踏み出そう！

～未来の南砺市のためにできること～

2030 年を見据えて今できる、身近なことから考えよう

【家の中でできること】

- 家事や子育ての分担について話し合おう
- 水を出しっぱなしにしないようにしよう
- トイレの水を流すときは大小のレバーを使い分けよう
- 日頃から節電を心がけよう
- 太陽光や木質資源などの再生可能エネルギーを活用しよう
- 食べ残しや作り過ぎを減らし、食品ロスをなくそう



【家の外でできること】

- 地元の農産物を購入しよう
- 健康診断や予防接種を受けよう
- 鉄道やバスなど、公共交通機関で移動しよう
- プラスチック製品の使用を控えよう
- マイバックを使おう
- 資源回収を実施しよう



【職場・学校でできること】

- 貧困の現状や原因について学ぼう
- 働き方改革を実践しよう
- 友だちや同僚と仲良くしよう
- 開発途上国への支援について学ぼう
- 新しい技術について調べよう
- 世界でどんなことが起きているか調べよう



【地域でできること】

- 地域社会で学ぶ機会を増やそう
- お互いを認め、相手を大切にす気持ちを持とう
- 差別的な慣行をなくそう
- 災害時などに助け合えるよう、住民間の絆を深めよう
- 子ども会や自治会活動などに参加してみよう
- SDGs の達成に向けたイベントなどに、積極的に参加しよう



【企業活動でできること】

- 資源や廃棄物の削減・再利用・再活用、環境に配慮した原材料の調達や製品作り
- 温室効果ガスの排出の削減、再生可能エネルギーの利用
- 高齢者や障がい者の雇用環境の充実と、その雇用
- テレワーク、サテライトオフィス
- CSR、CSV の実施、取組（地域コミュニティへの参画、学校教育への協力、地域への寄附などの地域貢献活動）



お問合せ

南砺市エコビレッジ推進課

TEL 0763-23-2050

<https://ecoto.jp/>

Mail ecovillageka@city.nanto.lg.jp

